

社会・環境部会 平成19年度 春の総会 議事次第

日 時 : 平成19年3月29日(木) 14時30分 ~

場 所 : 名古屋大学 G会場

議 題

1. 部会長挨拶
2. 平成19年度部会運営体制
3. 平成18年度決算概要及び19年度予算について
4. 平成18年度 活動の概要報告と次年度活動についての意見交換
5. 平成18年度部会表彰について
6. その他

配布資料

- ① 平成18年度収支概要及び19年度予算
- ② 平成18年度活動の概要
- ③ 19年度活動について
- ④ 19年度部会運営体制
- ⑤ 18年度部会表彰 選考経緯及び表彰者と表彰内容
- ⑥ 表彰規定細則の改定

以 上

※ 総会に引き続き部会表彰を行ないます。

資料1 平成18年度収支概要

資料①			平成18年度収支予算及び実績見込表		
社会・環境 (勘定科目……3419, 6419)					
「1」通常予算	勘定科目	補助科目	当年度予算	当年度実績	実績-予算
(1)前年度繰越金			634,860	634,860	0
(2)当年度収入					
部会配付金 収入	3419	011	196,000	196,000	0
論文集売上、掲載料	"	012		68,001	68,001
セミナー テキスト売上	"	013		0	0
セミナー 残金収入	"	015		0	0
シンポジウム 参加費	"	019		0	0
その他 収入	"	"	150,000	0	-150,000
収入 計			346,000	264,001	-81,999
(3)当年度支出					
会議費	6419	011	50,000	9,808	-40,192
通信費・発送費	"	012	10,000	7,876	-2,124
印刷費	"	013		0	0
講師謝金・旅費	"	014	200,000	97,202	-102,798
委員旅費	"	015		20,000	20,000
管理費配賦額	"	017	59,000	59,000	0
セミナー補助金支出	"	018		0	0
その他支出(部会表彰費用)	"	019	120,000	126,450	6,450
その他支出	"	"		42,400	42,400
支出 計			439,000	362,736	-76,264
当(月)年度収支尻(2-3)			-93,000	-98,735	-5,735
翌年度 繰越金(1+2-3)			541,860	536,125	-5,735
「2」セミナー	勘定科目	補助科目	当年度予算	当年度実績	実績-予算
(1)前年度繰越金					0
(2)当年度収入					
独自収入 参加費	3419	031		0	0
部会補助金収入(通常予算)	"	032		0	0
収入 計			0	0	0
(3)当年度支出					
独自支出 宿泊費他	6419	031		0	0
" シンポ開催費用	"	"		0	0
" " 講師謝金	"	"		0	0
" " 講師旅費	"	"		0	0
" " 切手代	"	"		0	0
" " 運搬費	"	"		0	0
残金 通常予算へ	"	032		0	0
支出 計			0	0	0
当(月)年度収支尻(2-3)			0	0	0
翌年度 繰越金(1+2-3)			0	0	0

平成19年3月29日

平成18年度 社会・環境部会 活動状況

1. シンポジウム「原子力施設の耐震指針はどう変わったか？」

H18年度の社会・環境部会シンポジウムは、昨年9月19日に改訂された、耐震安全性に係る安全審査指針を取り上げた。対象者は耐震の専門ではない、原子力関係者を想定し、難解な改訂内容を専門家から解り易く解説し、関係者に周知することを企図した。

参加者をできるだけ多くするため今年は例外的に参加費を無料とした。

結果的には動員をかけずに約100名の参加者が得られ、ほぼ所期の目的は達成できた。

日時：平成18年12月15日（金） 14:00～16:30

場所：東京大学（本郷）内 武田先端知ビルホール

座長：原子力安全研究協会顧問 松浦 祥次郎氏

講師：独立行政法人原子力安全基盤機構

総括参事 平野 光将氏

解析評価部長 海老沢 勝三氏



2. マスコミ関係者のための原子力セミナー（第1回）

平成18年度の新規事業としてマスコミ関係者と学会との関係強化を目的として定期的な意見交換・勉強会を企画した。

年間に数回程度の開催を目標として始めたが、参加者や講師のご都合などにより今年度は下記の第1回のみにとどまった。

ただし、関係者のニーズは高いため今回の経験を生かしつつ、次年度も引き続き企画実施し定例化を図りたい。

日時：平成18年8月22日（火） 18:30～20:00

場所：東京大学工学部 12号館 2階126会議室

テーマ：わが国における原子力施設の検査制度

講師：班目 春樹 東京大学大学院教授

参加者：3名（当初申し込み13名、耐震委員会関係で減少）

この場において、原子力学会の主要事業についても紹介（澤田理事）

今後のテーマ（要望） 放射線防護の考え方  
放射性廃棄物の規制について

### 3. チェインデスカッション

#### ①北海道大学での開催

討論テーマ 原子力学会の説明責任とは何か？

日時：平成18年9月28日（木） 13:00～15:30

場所：学会秋の大会C会場

座長：京都大学名誉教授 吉川 榮和先生

講演：原子力学会に期待する説明責任

東京工業大学 鳥居弘之教授

原子力学会の果たすべき説明責任

東京大学 班目春樹教授

#### ②名古屋大学での開催

討論テーマ 原子力とマスメディア報道

日時：平成19年3月29日（木） 12:30～14:30

場所：学会秋の大会G会場

座長：日本原子力機構 広報部長 久保 稔氏

講演：原子力の報道発表はどうあるべきか

原子力安全委員会 佐田 務氏

原子力学会としての世論調査

東京大学 木村 浩助教授

4. 「マスメディア報道と原子力世論に拘わるデータベース構築と拡充」特別専門委員会昨年引き続き、マスコミ対応WG、世論調査WG及び専門委員として協力。

5. 「田中靖政先生追悼講演会」

日 時 : 9月27日(水) 16時～17時

場 所 : 北海道大学 C会場

内 容 :

座長 班目春樹部会長

講演 宮沢龍雄/エネルギー計画 田中先生が原子力学会に残されたもの

岡 芳明/東大 PBNC2004 で田中靖政先生に学んだもの

吉島重和/元東芝 田中靖政先生の思い出

小川順子/WIN-J WIN と田中靖政先生

6. 新広報 HP ガイドライン作成検討 Gr.

原子力ファシリテーションフォーラムとの連携のシステム構築の検討。

7. 「原子力施設の安全管理と社会環境ワークショップ」

原子力の安全管理と社会環境に関する研究開発の現状と課題、事業者と規制当局の関連する事項の実施状況と課題などを持ち寄り、関係者の共通認識とした上で、行うべき研究開発の課題や方向性、事業者や規制当局が実施すべき事項などを充実するための手がかり とするためのワークショップ(第1回)を共催で行なった。

日 時 : 平成19年3月8日(木) 13:00～17:15

場 所 : 東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ホール(武田先端知ビル)

主 催 : 日本原子力学会社会環境部会 日本品質管理学会 東京大学原子力国際専攻

後 援 : 原子力・安全保安院 原子力安全基盤機構

## プログラム

### 開会挨拶

日本原子力学会社会環境部会長

班目 春樹(東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 教授)

### 問題提起

原子力安全における安全管理技術への期待

平岡 英治(原子力安全・保安院 首席統括安全審査官)

## 品質マネジメント

座長：中條 武志（中央大学）

原子力安全における品質保証

飯塚 悦功（東京大学大学院工学系研究科 教授）

規制当局から見る品質保証の定着状況

根井 寿規（原子力安全・保安院原子力発電検査課長）

品質保証の取組みと課題

渡辺 邦道（東京電力）

原子力安全へのTQMアプローチ —トラブル未然防止への提言—

鈴木和幸（電気通信大学電気通信学部）

## ヒューマンファクター

座長：北村 正晴（東北大学）

ヒューマンファクターの原則と原子力における研究課題

古田 一雄（東京大学大学院工学系研究科教授）

原子力施設におけるヒューマンファクターの取組：規制側の現状認識

牧野 眞臣（原子力安全基盤機構）

関西電力におけるヒューマンファクターの取組状況：発電所への展開

芝池 博之（関西電力）

## 社会技術

座長：木村 浩（東京大学）

原子力安全に対する社会的関心の変遷

北田 淳子（原子力安全システム研究所）

原子力の安全安心に必要な社会技術

堀井 秀之（東京大学大学院工学系研究科 教授）

## 閉会挨拶

日本品質管理学会 会長

圓川 隆夫（東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授）

## 8. 部会活動経過

### 8. 1 総会

平成18年9月28日

秋の大会（北海道大学）

平成19年3月28日（予定）

春の年会（名古屋大学）

### 8. 2 委員会開催状況

平成18年	4月24日	総務小委員会
	6月1日	第1回運営委員会
	7月18日	企画小委員会
	9月20日	総務小委員会
	12月8日	表彰、総務小委員会
平成19年	1月29日	表彰、総務小委員会
	2月15日	第2回運営委員会

以上

社会・環境部会 平成19年度第二回運営委員会 議事メモ

日時：平成19年2月15日（木） 13時 ～ 15時

場所：日本原子力発電 本店会議室

出席者：班目部会長、横手副部会長、澤田理事、諸葛委員、久保委員、大場委員  
赤坂委員、木村委員、吉井

議 事

1. 平成18年度部会表彰について

- ・ 表彰小委員会の検討経過と候補者について報告し、了承された。
- ・ 故田中靖政氏に対して特別功労賞を差し上げることも併せて了承された。
- ・ 表彰対象者については、いずれの賞についても部会員に限定しないこと

とし細則を改定し今回から適用する。

部会表彰規定の以下を削除する。

第2条第1項 ～部会に属する～

2項 ～部会ならびに学会に属するかどうかを問わず～

3項 ～部会ならびに学会に属するかどうかを問わず～

2. 部会活動状況と今後の予定について

① チェインディスカッション（諸葛委員）

春の学会における企画についての紹介があり、進行と役割分担を確認した。

② マスコミ関係者のための原子力セミナー（久保委員）

第1回の開催結果の報告とマスコミ関係者の要望などの報告があり、次回は「高経年化」をテーマとし講師は関村教授にお願いすることとした。今年度中に開催を目標とするが、先生のご都合により調整。

③ マスメディア報道と世論動向調査特別専門委員会（澤田理事、木村委員）

専門委員会の活動状況の報告、今年度の成果は別途紹介。

受託事業による収益の取扱いが決まった旨の紹介。余剰金の3割を学会に納付し、残りは担当部会に配布されるルールとなった。（来年度収入分より適用される）

④ 原子力ファシリテーションフォーラムとの連携（木村委員）

システム構築の検討状況の報告。次回総会時に紹介いただくことになった。

⑤ 原子力の安全管理と社会環境ワークショップ（澤田理事）



保安院からの依頼に基づき品質学会、東大と共催で第1回を3月8日（木）  
武田先端知ホールで計画。

部会員にはメーリングリストで参加を働きかける。

来年度以降の継続については、別途検討する。

### 3. その他

#### ① 18年度収支と19年度予算（事務局）

来年度からシンポジウムなどでの収益の道を探ることも必要。

#### ② 19年度運営体制

今年度で任期が切れる運営委員（7名）は、いずれも再任可能と確認された。

以 上



## 資料④

## 社会・環境部会 運営委員会体制

## 平成18年度運営委員

## 平成19年度 運営委員 (案)

	名前	所属
部会長	斑目 春樹	東京大学
副部会長	横手 光洋	原子力文化振興財団
企画小委員長	諸葛 宗男	東京大学
運営委員	富森 卓	電気事業連合会
	長岡 豊	原子力安全システム研究所
	清水昭比古	九州大学
	宇根崎博信	京都大学
	酒井 幸美	原子力安全システム研究所
	久保 稔	サイクル機構
	高橋 信	東北大学
	三島 毅	日本原燃
	時澤 孝之	元 中国地域エネルギーフォーラム
	大場 恭子	金沢工業大学
	田中 博	電力中央研究所
	赤坂 秀成	原産
	木村 浩	東京大学
	—	—
事務局長	吉井 裕	日本原電

名前	所属	任期	
斑目 春樹	東京大学	平成20年3月末	
横手 光洋	原子力文化振興財団	<u>平成21年3月末</u>	再
諸葛 宗男	東京大学	平成20年3月末	
富森 卓	電気事業連合会	平成20年3月末	
長岡 豊	原子力安全システム研究所	平成20年3月末	
清水 昭比古	九州大学	平成20年3月末	
宇根崎 博信	京都大学	平成20年3月末	
酒井 幸美	原子力安全システム研究所	平成20年3月末	
久保 稔	日本原子力研究開発機構	<u>平成21年3月末</u>	再
高橋 信	東北大学	平成20年3月末	
三島 毅	日本原燃	平成20年3月末	
時澤 孝之	日本原子力研究開発機構	平成20年3月末	
大場 恭子	金沢工業大学	<u>平成21年3月末</u>	再
田中 博	電力中央研究所	<u>平成21年3月末</u>	再
<u>小林 容子</u>	<u>テプコシステムズ</u>	<u>平成21年3月末</u>	新
木村 浩	東京大学	<u>平成21年3月末</u>	再
<u>蛭沢 重信</u>	<u>エネルギー総合工学研究所</u>	<u>平成21年3月末</u>	新
吉井 裕	日本原電	<u>平成21年3月末</u>	再

資料⑤-1					
平成18年度 日本原子力学会 社会・環境部会 表彰者リスト					
①番号	②賞	③所属	④名前	⑤表彰理由	⑥共同受賞者
1	特別功労賞		田中 靖政(故人)	社会・環境部会の設立と発展に寄与	
2	業績賞	シニアネットワーク会長	竹内 哲夫	原子力・放射線への理解促進のための多方面での講演活動およびシニアネットワーク設立と普及活動への尽力	
3	優秀発表賞	財団法人政策科学研究所	伊東 慶四郎	原子力エネルギーの外部性に関する著作と「外部性の概念」の紹介	
3	優秀発表賞	京都大学エネルギー理工学研究所	小西 哲之	原子力エネルギーの外部性に関する著作と「外部性の概念」の紹介	
3	優秀発表賞	財団法人政策科学研究所	松原 純子	原子力エネルギーの外部性に関する著作と「外部性の概念」の紹介	
3	優秀発表賞	独立行政法人科学技術振興財団	大森 良太	原子力エネルギーの外部性に関する著作と「外部性の概念」の紹介	
4	優秀活動賞	—	(財)日本原子力文化振興財団	ラブロック博士招聘によるガイア理論と原子力の理解促進活動	
5	奨励賞		神奈川県附属中・高等学校	原子力・エネルギー学習「未来の世代が考える2030年の日本の原子力・エネルギーの姿」への取り組み	
5	奨励賞		福井県立敦賀高等学校	原子力・エネルギー学習「未来の世代が考える2030年の日本の原子力・エネルギーの姿」への取り組み	
5	奨励賞		摂陵中学校・高等学校	原子力・エネルギー学習「未来の世代が考える2030年の日本の原子力・エネルギーの姿」への取り組み	
5	奨励賞		愛知県立犬山南高等学校	原子力・エネルギー学習「未来の世代が考える2030年の日本の原子力・エネルギーの姿」への取り組み	
5	奨励賞		茨城工業高等専門学校	原子力・エネルギー学習「未来の世代が考える2030年の日本の原子力・エネルギーの姿」への取り組み	

平成18年度表彰小委員会 及び 総務小委員会 議事メモ

日時：平成18年12月8日（金）10:00～11:30

場所：原子力学会 会議室

出席者：横手副部長（表彰小委員長）、諸葛委員、三島委員、田中委員、渡辺、吉井

議事

1. 本年度部会表彰について

①今年度は以下のスケジュールにて行なうこととした。

- ・12月中旬 部会ホームページなどで推薦募集
- ・1月31日 募集締め切り
- ・2月上旬 小委員会にて選考
- ・2月下旬 運営委員会に報告、承認
- ・3月28日 春の学会時の総会後に部会長より表彰（※）

※春の学会は、3月27日～29日であるが、チェーンディスカッション後に総会及び表彰を行なうことで、今後調整を行なうこととした。

②表彰対象者の推薦は、各委員においても検討し応募の働きかけなどを行なう。

③「業績賞」は、部会員が対象としているが本部会の立場では限定せずに幅ひろい対象とすべきとの意見がで、小委員会としては限定しないこととした。

（昨年も同様の主旨で「奨励賞」の対象を広げた経緯もある）

→ 部会長に確認後、募集要項に反映する。

2. フェローの推薦について

- ・当部会としての推薦者なしということで部会長に回答する。（対象と考えられそうな方はすでにフェローになられていることなど）

3. 春の年会企画について（諸葛委員）

- ・チェーンディスカッション「原子力とマスメディア報道」を計画。
- ・座長は、澤田理事にお願いする。

講師は、佐田 務氏（安全委員会）、木村 浩氏（東大）に加えて、青森放送の米澤章子氏に依頼することとした。（いずれも特別専門委員会委員）

4. その他

①学会事務局から依頼の今年度実績及び来年度予算については、今回の検討を踏まえて提出（吉井）。12月20日締め切り。

②保安院より依頼のワークショップについては、3月8日に実施することで武田先端知ホールを確保してあるが具体的内容については今後検討を行なう。

③ 12月15日の部会シンポジウムの役割分担について確認した。

日時 : 平成19年1月29日(月) 10:00 ~ 11:30  
場所 : 日本原電 会議室  
出席者 : 横手副部長(表彰小委員長)、諸葛委員、三島委員、木村委員、田中委員、  
吉井

## 議 事

### 1. 部会表彰について

・申請及び推薦があったものから以下を対象とすることとし、次回運営委員会に報告することとした。

業績賞	竹内 哲夫氏
優秀発表賞	小西 哲之氏 他 (エネルギーの外部性と原子力)
優秀活動賞	原子力文化振興財団(ラブロック博士シンポジウム)
奨励賞	エネルギー学習実践校(5校)

業績賞の対象については、現行規定では部会員となっているが、賞の主旨からは限定しないことで、規定改定を合わせて運営委員会に諮る。

・故田中靖政先生に対する表彰の意見があり、この取扱いについて協議。

今回「特別功労賞(仮称)」として表彰対象とすることとした。

(総会で紹介し、ご遺族にお届けする)

規定上は、「補則」で読むことし運営委員会で了解を得る。

### 2. 運営委員会の開催

・表彰と総会準備のため2月中旬に第2回運営委員会を開催(部会長と調整)。

表彰関係のほか

チェインディスカッションの準備

原子力の安全管理と社会環境ワークショップ対応

来年度体制や事業の進め方 などについて検討する。

以 上

資料⑥

-----  
日本原子力学会社会・環境部会表彰規定細則  
-----

平成16年12月15日 運営委員会で決定  
平成17年3月16日 運営委員会で改定  
平成17年5月11日 運営委員会で改定  
平成18年2月27日 運営委員会で改定  
平成19年2月15日 運営委員会で改定

(目的)

第1条 日本原子力学会社会・環境部会表彰規定（以下規定という）の実施は、規定に定めるところの他は、この細則の定めるところによる。

(種類と対象)

第2条 部会賞に下記の賞を設ける。

(下線部削除)

- 1) 業績賞：原子力の社会的側面あるいは原子力と社会との接点の分野において顕著な業績のあった部会に属する個人に授与する。
  - 2) 優秀発表賞：原子力の社会的側面あるいは原子力と社会との接点の分野における優秀な発表（論文、著作、口頭発表等）を対象とし、部会ならびに学会に属するかどうかを問わず、これをなした個人及びグループに授与する。
  - 3) 優秀活動賞：原子力の社会的側面あるいは原子力と社会との接点の分野における優秀な活動を対象とし、部会ならびに学会に属するかどうかを問わず、これをなした個人及びグループに授与する。
  - 4) 奨励賞：原子力の社会的側面あるいは原子力と社会との接点の分野における優秀な発表及び活動、あるいは部会の発展や運営に対する貢献を対象とし、原則として、これをなした概ね35歳までの個人またはグループに授与する。
- 2 優秀発表賞の対象は募集期限を起点とする過去3年間以内の成果とし、それぞれの賞の受賞者はグループを1者と数えて個人との総和で原則として3者以内とする。
- 3 賞は表彰盾、メダルまたは賞状とする。

(部会賞選考小委員会)

第3条 規定第3条に基づき、部会運営委員会の下に部会賞選考小委員会（以下、小委員会という）を置く。

- 2 小委員会は、部会賞受賞候補者を選考し、部会運営委員会に提案することを任務とする。
- 3 小委員会は、委員長及び若干名の委員をもって構成する。委員長は部会長が選任し、委員は委員長が選任する。ただし、委員長及び委員は受賞候補者または推薦者になれないこととし、これに該当した場合はさらに補選をする。

(募集方法)

第4条 小委員会は、学会誌、部会ホームページ、部会電子メールにより公告して受賞候補者の推薦を受ける。

- 2 部会員または原子力学会賛助会員代表者（以下、部会員等という）は、自薦、他薦を問わず、所定の用紙またはフォーマットを推薦状として小委員会に提出することができる。

(補則)

第5条 この細則に規定されていない事項や小委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の協議による。